

コオナガミズスマシ *Orectochilus punctipennis* Sharp

【選定理由】

河川の中流域に生息する種で、河川の汚濁などによって一時絶滅状態にあったと考えられていた。1990年代以降に庄内川、豊川で現存しているのが確認されたが、生息基盤は脆弱である。

【形態】

体長 5.5～6mm。体は長楕円形で黒くやや金属光沢を帯びる。肢などの付属物は赤褐色。上翅の点刻は密で、♂の会合部先端はほぼ直角で先が丸まり、♀ではやや斜めで会合端が少し後方に張り出す。

【分布の概要】

【県内の分布】

名古屋市山崎川、名古屋市庄内川、豊田市矢作川、豊田市(旧稲武町)月ヶ平、新城市宇連川、豊橋市豊川で記録がある。このうち庄内川、矢作川、豊川では生息環境に大きな変化がないことから、現在でも生息していると考えられる。

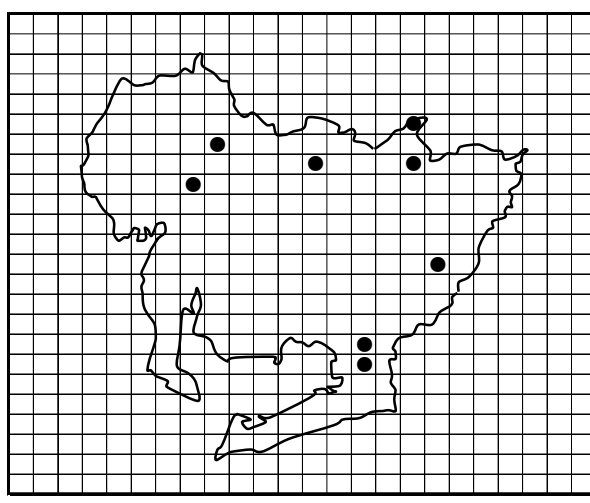
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本の特産種であるが、ごく近似の種が、南西諸島、台湾に分布している。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

大きい河川の中流域で、岸辺が水でおおわれているような環境に生息している。夜間活動性で、昼間はその姿をほとんど見ない。

【現在の生息状況／減少の要因】

矢作川では多くの生息地が確認され、県内では恐らく最も安定した生息地域と考えられるが、他では非常に少ないと思われる。夜行性であるため、生息状況の調査が十分に行き届いていない可能性もある。河川、特に中流域の水質汚濁、環境の変化などが減少の要因である。

【保全上の留意点】

中流域における自然河岸の保全と支流からの汚水流入の規制や、本種の生息域になるような環境にオオクチバス、コクチバス、ブルーギルなどの侵略的外来種が侵入しないようにする必要がある。

【関連文献】

- 佐藤正孝, 1977. 日本産ミズスマシ科概説, 3. 甲虫ニュース, (39): 1-4.
穂積俊文・佐藤正孝, 1957. 東海甲虫誌(第3報). 佳香蝶, 9 (31): 1-10.
佐藤正孝・成瀬義一郎, 1963. 矢作川流域の水生甲虫類. 矢作川の自然: 163-172. 名古屋女子大学.
豊田市, 2005. 豊田市自然環境基礎報告書.
豊橋市, 1999. 豊橋市自然環境保全基礎調査報告書.

(長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希)